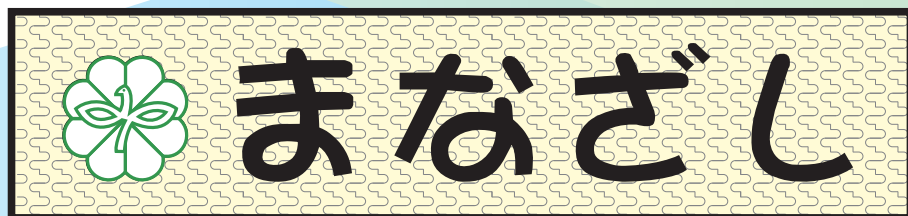




秦野市社会福祉協  
議会のHPから閲覧  
できます



秦野市民生委員児童委員協議会

【発行人】 田村正一

【編集】 広報部

【連絡先】 〒257-0054

秦野市緑町16番3号

TEL 0463(84)7711

## マイナンバーカード普及拡大中です!

秦野市では、令和6年2月末時点でマイナンバーカードの申請率が86.2%、交付率が77.1%となりました。マイナンバーカードを利用したコンビニ交付サービスや住民異動届のオンライン申請、保険証利用など利用できる場面が拡大し、申請される方が増えています。昨年12月からは、暗証番号の設定や管理が

不安な方の負担軽減のため暗証番号を設定しない顔認証カードの申請受付も開始しました。また、本年12月には、マイナンバーカードと健康保険証の一体化も予定されています。この機会にマイナンバーカードの申請を検討してみてくださいはいかがでしょうか。

身分証は  
免許証があればいいと  
思ってたけど、  
免許返納してからも使える  
マイナンバーカードもいいかも



転出届が  
インターネットを  
介して自宅等々できる



役所は紙の  
手続きが多くて面倒…  
マイナンバーカードが普及すれば、  
それ全部なくなるかも?!

窓口



マイナンバーカードがあれば、住民票の写し、印鑑登録証明書、市県民税課税証明書を全国のコンビニなどのマルチコピー機から簡単な操作で取得できます!



拾われても  
顔写真がついているから  
他人に悪用されることはありません!



マイナンバー、  
だけ見られても  
大丈夫って知っていた?



おれくらい  
偽造は難しい!



情報を  
盗み取られる危険、  
ありません!



ICチップに  
入っている情報は、  
自分でも確認できる



マイナンバーカードの申請は、「市役所窓口」や「出張申請おたすけ隊」の職員がお手伝いします。お気軽にご相談ください!

詳しくはこちらから



「申請について」 「出張申請について」

お問い合わせ先：秦野市役所戸籍住民課（本庁舎1階）TEL 0463-82-5127

## ～ 社会福祉協議会の役割とは ～

秦野市社会福祉協議会(市社協)は、住民の皆さん一人ひとりの参加によって

**ふだん**の **くらし**の **しあわせ**が

つまった福祉のまちづくりを目指す組織です。

たとえば…  
こんな相談が

出産したばかり…  
子育てや家事を  
手伝ってほしい

頼れる親族がないから  
自分の亡くなった後は、  
どうすればいいか心配…

仕事を失ってしまった…  
このままでは、  
家賃が払えなくなる…

子どもが足を  
骨折しちゃった!  
車イスを借りたい

仕事を辞めてから時間がたってしまった…  
そろそろ何か活動したいな…

たとえば…  
こんな方法で

子育て支援ヘルパー  
を派遣します

死後事務サービスや  
終活相談もやっています

お金の貸付や食料支援  
で生活を支えます

車イスを貸し出します  
また、操作方法も  
教えちゃいます

自分を輝かせる福祉活動やボランティア  
活動を紹介します  
何かいいのかわからないという方には  
各種講座等のご案内も



私たちの活動の財源は、地域のみなさんからの寄付と会費、国・県・市からの補助金です。私たちは、制度やサービスだけでは解決できない地域の困り事の解決に向けて、事務局職員だけでなく会員(地区社協、自治会、民生委員児童委員、福祉施設、ボランティア、当事者団体など)のみなさんとともに取り組みます。

社会福祉法人秦野市社会福祉協議会

〒257-0054 秦野市緑町16-3 秦野市保健福祉センター内  
TEL 0463-84-7711(代) FAX 0463-85-1302

## 「高齢者ガイドブック」の紹介

秦野市高齢介護課

秦野市では、高齢者のための生涯学習、保健、福祉、医療のサービスをまとめた「高齢者ガイドブック」を毎年度発行しています。



＜「高齢者ガイドブック」の表紙＞

記載内容を目次の項目で以下に紹介します。詳しくは手にとってご覧ください。

- (1) 生きがいづくり
- (2) 健康維持と疾病予防
- (3) 疾病対策
- (4) 精神・認知症
- (5) 介護予防
- (6) 介護支援
- (7) 在宅生活の支援
- (8) 地域ケア
- (9) 在宅療養が必要になったら
- (10) 成年後見制度の窓口
- (11) 医療制度等
- (12) 民間サービス情報

全54ページ

お元気な方から介護が必要な方、そのご家族の方までお使いいただけるように編集してあります。

「高齢者ガイドブック」は、市役所高齢介護課のほか、各地域高齢者支援センターでも入手できます。

秦野市役所ホームページからもアクセスできます。 ➡



## 鶴巻地域高齢者支援センターの取り組み

鶴巻地域高齢者支援センターは、高齢者の相談窓口として鶴巻温泉駅の北側、弘法の里湯の近くのクリニック（メプレスビル）の3階の事務所で主任介護支援専門員1名、社会福祉士4名、看護師2名で活動を行っています。

担当の鶴巻地域は人口約17,000人、高齢化率31.4%、平塚市と伊勢原市の市境の地域となっております。

地域の特色として認知症の見守り活動に力を入れています。その一つに、センター職員、地域の福祉関係者、民生委員の皆さん、自治会の皆さん50名程が登録している「つるまきチームオレンジ検索網」というLINEグループを作っています。認知症の高齢者が行方不明になった時に早く発見するための独自の検索網です。

実際に何度かご家族や地域のケアマネジャーさんからの相談や、市からの行方不明者情報をもとに検索活動を行いました。その場で皆さんから検索状況の報告を頂き、支援センターの職員だけではできない地域の力を感じる仕組みとなっています。

認知症になっても安心して生活できる地域を作るという課題は簡単なことではありませんが、支援センターの職員一同、地域の方の力をお借りしながら皆さんのお役に立てるよう活動に取り組んでまいります。



＜認知症高齢者への「声かけ訓練」の様子＞  
鶴巻民児協との共同研修



＜R5年9月 アルツハイマーデー（鶴巻温泉駅にて）＞  
つるまきキャラバンの皆さんと

## われらの仲間 (第8回)

この欄では、特技や趣味などを持った民児委員を紹介しています

長濱 さをりさん (鶴巻地区民児協)

## ～人のご縁と死生観～

以下は長濱さんからの寄稿文です。

地域ボランティアをしていたご縁で民児委員となり、現在二期目です。

人のご縁で広畑プラザのデイサービスの料理ボランティアも現在6年目。そこからのご縁で給食仕事やそろばん教室指導、傾聴の会などにも繋がりました。

さらに、せっかく日本に生まれたのだから何か日本文化を学び、次世代に繋げたい。そんな思いの時、鶴巻でのボランティア活動のご縁で誘われたのが詩吟。

最近では鶴巻で行った詩吟の体験教室がとっても好評でした。第二弾を企画中。機会があればぜひ詩吟の楽しさを体験しにきて下さい。

このように、様々な事は人のご縁から始まっていて、まさか私が民児委員になったり、苦手な料理を仕事にしたり、詩吟を始めたりするとは！と自分でも驚きの連続ですが、とても充実した日々を送らせていただいています。

民児委員活動では、少しずつ趣味の筆文字やパソコンでのチラシ作りなど自分の出来る事を活かせるようになってきた反面、未だ慣れない訪問活動での人との関わり方など勉強中。

年配の方々との関わりの中で、いつも思うのが自分の死生観。限りある人生の中で、どのように生きるのか。何をしたいかよりもどんな人になりたいかを一生のテーマとして、失敗も糧に悔いなく、でも時々答えを求めてオロオロしながらも、今現在を楽しもうと思っています。

最近では魂が一番喜んだ事が友達親子とのインド旅行。これも人のご縁で様々な体験もさせていただき、そして火葬場にも行ってきました。インドの火葬場は観光客も自由に見る事が出来てとてもオープンです。

人は誰でも間違いなく自分の肉体がなくなる日がきます。その日まで、一隅を照らす笑顔を忘れず、たとえ自分が寝たきりになったとしても世のため人のためにと祈れる人でありたいと思っています。



&lt;筆文字の一例&gt;



&lt;緑神大会連吟コンクールにて&gt;

## 編集後記

コロナが5類に移行してから人々の生活は少しずつ以前のように戻りつつあります。このコロナ禍の3年間に世の中で変わったことの一つにデジタル化の進展があげられると思います。オンラインによる会議やコンサートが容易に行われるようになりました。遠隔地の方々とは話し合えたり、その時間だけ参加できることで交通などの時間の節約になるメリットは大きいです。

私の所属する自治会では、今年度、自治会館にWi-Fiを設置し、理事会メンバーによるグループLINEをつくり、Zoomによる理事会の開催が試みられ、功を奏しました。グループLINEでは理事会の全員が同じ情報を共有できるメリットがありました。理事会メンバーには老若男女がいますが、互いに教え合いながらだんだんに慣れていきました。

世の中はデジタル化、ペーパーレス化の時代に向かってはいるようですが、それで全てが解決すると

は思えません。顔を合わせた議論はオンラインでは得られないニュアンスをもたらすでしょう。デジタルデータはバックアップをとっていても失われるリスクを拭えません。他方、印刷された紙媒体はスマホやパソコンがなくてもだれもがすぐ手に取り見る事が出来るメリットがあります。不要になれば捨てる事も出来ます。要はバランスの問題なのかもしれません。

高齢者にはともすればデジタル弱者が多いことも事実です。そのような方々が不自由を感じないでいられる社会であってほしいし、高齢者も面倒をいとわず果敢にデジタル化に挑戦していく元気を持ちたいものです。

「まなざし」の発行は、高齢者に優しい情報提供の媒体の一つになっているのではと思いながら編集作業に勤しみました。

H.Takabu